

川内ちゃんかぐ

大変な事に



sky's bar

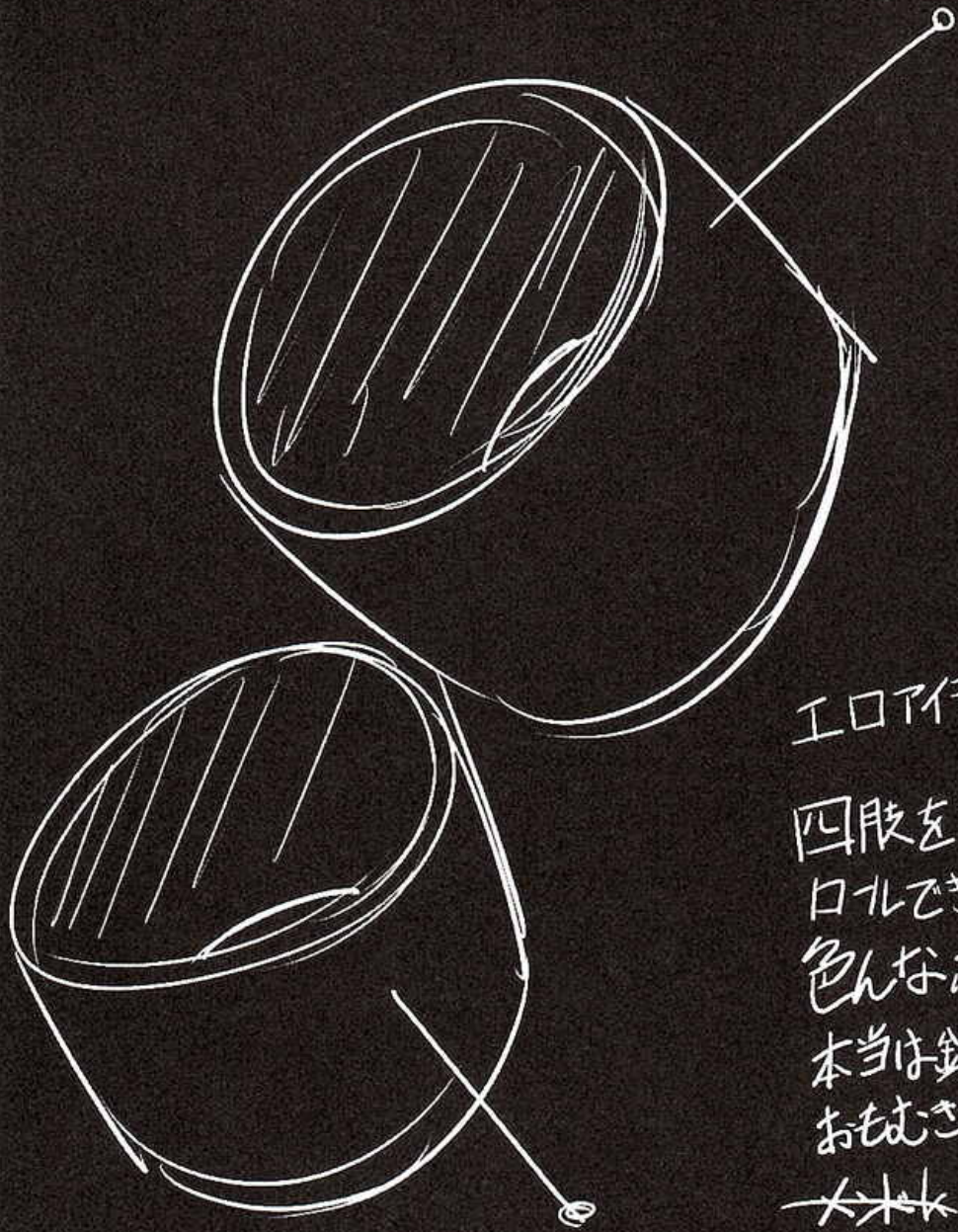
DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

川内ちゃんがい

大変な事に



sky's bar




エロアイテム

四肢を自由に電子コントロールでき、
色々なポーズにできる。
本当は鎖が付いてた方が
おもむきがあるのだが、

~~大木~~

こんにちは、哲人です。
良かったら読んでね!!



気がつくと私は両手両足に
枷を付けられて運ばれていた。

ここはどこだろうか。

ここ最近の記憶が思い出せない。


私の横で何やら話をしているようだが、
一体私はこれから何をされるのだろうか。
私は無事にここから出れるのだろうか。



彼らはどうやら私を触手繁殖の実験に使うと言っている。
私を母胎にして敵を殲滅する兵器開発の為、私は解体されずに触手の苗床として、利用するつもりらしい。
男は私の中心部に手を出し具合を確かめている。
どうやら私はかなり適した母胎のようで、嬉しそうに私の身体を弄繰り回している。

「もう少し入念にほぐしておかないとな
すぐ壊れちまつたら話にならんしな」
そう言つて指を奥まで一杯入れて
私の身体の内側をぐちゃぐちゃに掻き回す。
好きでもない男に好きにされた屈辱感と、
初めての感覚に戸惑いつつも、
波に飲まれるような快感に身をよじる。





「もう良いだろう」
そう言くと別の男がたくさんの触手を、
引き連れて私に差し向ける。
逃げようにも両手両足に繋がれた拘束具によって、
電子コントロールされ逃げる事ができず、
あつという間に私の両足は触手に食べられ、
私の中心部へと残りの触手は狙いを定め、
今にも私に侵食しようとウネウネと
小気味の悪い動きで私に襲い掛かろうとしている。

触手は私のおマンコを一直線に突き立ち、
私の膣壁をぐりぐり捻り込み、
触手の突起が私の中の肉壁全てを刺激し、
頭が飛びそうになる気持ちを抑えられず、
大きな声で助けを請うたが、虚しく響くだけだった。





暫くの間、おまんこを責められ続け、
下半身がまるで自分の物ではないかのような
侵略されたかのような快楽にやられ、
あらゆる突起を弄ばれる。
足の指はもはや快感の波に飲まれ、
少しでも動かそうとすれば、全身に電撃が走る程に
イキ狂ってしまいそうでした。ただひたすら足を開き続け、
挿入の快楽を享受するしかない。

触手の動きが早くなった。
もう射精が近いようだ。
私はもはや成す術もなく、
ただピストンする触手の動きに耐えるしかなく、
射精を受け止める以外の選択肢がない絶望に
ただただ堪えるだけの肉の器と化していたのだった。

触手は先端の穴からどぴゅどぴゅと脈動し、
反対側の穴へと乗り移るかのようになり、
精液が勢いよく飛び出す。
勢いよく流れ出したそれは一瞬にして
全身を満たし抱えきれないそれは
外へ外へと別の出口へと吹き出していった。
彼女の苗床としての人生：
いや、艦生はこれから始まるのだった。





1枚絵続きの工口本は
グレスケにしたら味気なくなっちゃうのかなあ。
カラーとグレスケをもっと研究しようと思った。

啓人

つーか結局
あの拘束具はねー…。

奥付

sky's bar: 啓人

2015.12.30(コミックマーケット89発行)

また読んでね！サンクス！